

第4期スポーツ基本計画策定 に関わるヒアリング用資料

公益社団法人 全国大学体育連合
(大体連)

- はじめに：

大体連は、高等教育機関における**体育（大学体育）に関する調査・研究**を行い、その成果の普及活用を図り、大学体育に関する**相互の連絡、協力体制を確立**し、大学をはじめとする**高等教育の発展に寄与すること**を目的としている。

- 大学体育の目標：

健康・体力の増進と生涯にわたるスポーツ・身体活動の継続につながる理論と実践力を身につけること

スポーツの文化的価値、コミュニケーションツールとしての意義の理解と体験 など

⇒ 大学教育および体育において、スポーツを教材として利用するとともに、学生と共にスポーツの意味・役割を幅広く共有することがスポーツの普及振興に繋がり、健康寿命やWell-Beingの獲得の基礎となる。

スポーツ振興に向けた取り組み状況・成果

- スポーツ普及振興の担い手（大学体育指導者）の育成：研修事業
 - 大学体育指導者全国研修会（夏季開催）
 - 大学体育指導者養成研修会（春季開催）
 - 各支部開催の研修会
 - スポーツ課題に関する講演（スポーツ行政，事故と責任，LGBTQ等）
 - 最新スポーツの実践（ピックルボール，超人スポーツ，パラスポーツ等）
- 学術研究活動の推進
 - 学術誌発刊「大学体育スポーツ学研究」
 - 「大学体育スポーツ研究フォーラム」開催
 - 研究助成事業
 - 授業実践研究の他，大学におけるスポーツ振興の研究

- 大学スポーツの推進への啓蒙活動

大学スポーツ推進宣言 現在，179校の学長が署名。

調査研究

「大学スポーツ推進に関する学生の意識調査」（2017年）

「大学スポーツの推進に関するアンケート」（2016年）

- 地域貢献・社会共創の推進（連携協定）

ワールドマスタースゲームズ2027関西組織委員会

日本プロゴルフ協会，ゴルフ市場活性化委員会

大学体育におけるゴルフの普及活性（日本ゴルフ用品協会から
クラブ提供：累計5976本・150大学，2025年4月現在）

スポーツ振興に関わる現状の課題

- 会員校，現場の教員においては正課体育の充実と発展（維持継続）に重きが置かれている現状がある。課外活動としてのスポーツやレクリエーショナルなスポーツ活動の活性化については、正課との関連性や各大学におけるメリット等を示しつつ、この推進の必要性を共有していかなければならない現状である。
- 大学におけるスポーツ振興の在り方に関する議論や研究成果はまだ十分に積み上げられていない。研究助成テーマの設定などによる推進の可能性を検討したい。
- Sport in Lifeコンソーシアム，スポーツ・フォー・トゥモロー・コンソーシアムとの協力においては情報の取得をしているものの具体的な連携は今後の課題である。

第4期スポーツ基本計画への期待

- 前提として、国民が生涯にわたりスポーツに取り組むための基礎として「教育課程」の充実が不可欠と考える。
- 例えば、学習指導要領において体育の目的に挙げられている「生涯スポーツに取り組む姿勢や能力の育成」の重要性とその成果を踏まえて高等教育(大学)に必要な政策が提示されるべきである。
- なぜなら、大学というライフステージにおける経験が、その後の個人の人生の中に如何にスポーツを位置づけるか、に大きな影響を与えるチャンスとなるからである。

※運動・スポーツ実施促進へは大学体育が最後の教育的介入となる

競技指向への偏りが、スポーツへの無関心と過度な指導や不正等の2極的課題構造を招いている点に注視し、全国民に対するスポーツの真の価値を啓蒙するための基礎的取り組みが未だ重要な段階である。

以上の観点を基礎に以下のような内容を計画において考慮すべき

- スポーツ振興のターゲットとして大学と大学生をピックアップ
- スポーツの価値の再教育や、運動・スポーツ実施率の向上への行動変容のための協力体制を整え、大学における体育・スポーツ教育、キャンパスライフの充実・レクリエーショナルスポーツ活動の在り方を検討
- 一般学生へ課外活動推進のための大学内の具合的取り組みの模索、共生社会の実現に向け大学内に障害者や地域住民等々の多様な人的交流のためにスポーツを活用する活動の実現、等の実践への援助（資金や制度面）と評価を強化
- また、スポーツ活動の安心・安全面から、暑熱対策として実施習慣を改変する取り組み等を検討（例：夏季は早朝や夕刻以降に生活・学習・運動をする社会を構築する、など）